

108歳の声楽家 嘉納愛子さん

感謝
嘉納さん



かのう・あいこ／1907年（明治40年）に三人姉妹の末っ子として大阪で生まれ神戸に育ちます。東京音楽学校（現・東京藝術大学）を卒業後、山田耕筰さんに師事、歌手として活躍します。27歳のとき、酒造家の嘉納鉄夫さんと結婚、一児をもうけますが11歳で早世。その後、相愛女子専門学校（現・相愛大学）音楽科の教授になり、現在に至るまで音楽教育に携わり続けています。

「歌う人は詩人でなければなりません。これは山田耕筰先生の教えです」

生徒さんが歌い出す前に、ピアノの横で嘉納愛子さんはこう語りかけました。歌うのは北原白秋作詞、山田耕筰作曲の「この道」。嘉納さんのもとはいまでも週に1回程度、コンサートなどに出るプロの声楽家たちが本番前の最終チェックにやっています。

一小節歌ったところで嘉納さんは演奏を止めさせます。「この道」と歌うとき、たくさんの道からこの道を選んだという感情を表現しなくてはダメですよ。ほかにも、話すように歌う「叙事」と気持ちを込める「叙情」を区別することなど、熱のこもった指導が続きます。レッスンは時に5時間を超えることもあるそうです。

「私はもう目もダメ、耳もダメ、歯もダメ……、もう総ダメ」と笑いながら、山田耕筰先生との思い出話や自身のからだのことを2時間近く話してくださいました。

嘉納さんの元気のもととは、やはり食べ物。うなぎや牛肉が大好きで、週に1度は食べているといいいます。そしてなんと、いつでも特製のしょうがの佃煮。新しうがの季節に黒糖と赤ワインで炊いたものを30キロ分つくり、毎日食べているそうです。

そのおかげか、老化を引き起こすAGE（終末糖化産物）をもとに測った体内年齢はなんと31歳。血管年齢も80歳代と健康で、103歳で冠動脈が狭くなった際はカテーテルで治療ができたそうです。

予定を書いたカレンダーには、レッスンを通院、そして取材の予定がビッシリ。見たい、食べたい、歌いたい。まだまだしたいことがたくさんある「たいたいばあさん」は、「五十、六十、花なら蕾、七十、八十、花盛り、九十になってお迎えが来たら、一〇〇まで待てと追い返せ」と笑いました。

